令和５年１月１日号

島野伝太郎一家の まちなみ通信 No.44

～宮島の杓子（しゃくし）～

伝太郎：あけましておめでとうマイク。大鳥居の修理も終わって、青い海に映える朱の大鳥居が見えるようになったね。この景色を見ると、「宮島だな。」ってほっとした気持ちになるよ。

マイク：そうですネ。きれいになった大鳥居も見て欲しいから、今年こそ、たくさんの人に宮島に来てもらいたいですネ。宮島のお店では、木工品を置いているお店が多いですよネ。うみさんのお店でも木工品がたくさんあって、とくに杓子が並ぶ様子は宮島ならではだと思いますヨ。

伝太郎：そうだね。杓子は宮島の伝統的なお土産物だからね。ひと昔前の宮島には、杓子の職人さんがたくさんいたんだよ。杓子は、江戸時代に僧の誓真さんが宮島の特産品として考案したと伝えられるけど、明治の半ばにはお土産としてだけじゃなく、日用品としても需要が高かったんだ。1904（明治37）年に出版された『厳島案内記』の「町民職業別の大要」によると島内の杓子職人はさじ職人を含めて60～70人もいたんだって。関西方面へ販路が拡大したことで、宮島での杓子生産が本格化したことから全国にその名前を知られるようになったんだよ。そんなこともあって、杓子のことを「みやじま」って呼ぶ地方もあるんだって。

昭和37年当時の杓子制作の様子

マイク：へぇ。そうなんですカ。宮島の杓子ってそんなに有名だったんですネ。

伝太郎：いろんな杓子があるけど、僕は杓子っていうとetto宮島交流館の大杓子が思い浮かぶな。

みらい：あの杓子ってすっごく大きいよね。

伝太郎：そうだね。あの大杓子は高さ7.7m、幅2.7mで重さは2.5トンもあるんだ。

マイク：そんなに大きかったんですネ。ところで、あれは何の木でできてるんですカ？

伝太郎：欅（けやき）の木だよ。原材料となった欅（けやき）の木は、昭和55年に出雲木材市場で直径1.3mもある欅（けやき）の大木を宮島町が買って、その欅を３枚の板にして継いで作ったものなんだ。杓子として加工する前には、木を自然乾燥させるのに３年近くもかかったんだって。

板３枚をつなぎ止める作業

マイク：僕は１枚の板だと思っていたんで、３枚の板でできてたなんて気づきませんでしたヨ。

伝太郎：大杓子が完成した時、牛が引いてパレードをしたこともあるんだよ。

杓子完成を祝うパレード

みらい：えっ！牛さん。みらいも見てみたかったな。

伝太郎：大杓子は完成した後、最初は、大元公園に収蔵庫を作ってそこに立てて飾る予定だったけど、いろいろな理由でできなくなって、桟橋に横にして飾ろうっていう案もでたけど、「万が一落下したら」という心配からそれも断念。結局、表参道商店街に横向きに置くことになったんだって。そしてetto宮島交流館ができるとき、正面玄関に置かれることになったんだ。

マイク：今、見ることができる大杓子も宮島を思う島の皆さんの思いを表しているんですネ。

写真はすべて宮郷彰通様から提供いただきました

今昔写真を見比べて

この写真は昭和55年に行われた正月マラソン大会の様子です。

正月マラソン大会は1月下旬に行われ、年齢対象別に行われていました。

この写真は小学生の部のものです。

写真の中の子ども達も寒さの中、元気いっぱい一生懸命に走っています。

伝建表示板の設置

伝統的な建造物の所有者の方に表示板取付けのため、委託業者から工事の日時について連絡をする場合があります。

また、それにあわせて順次、表示板の取付けを行います。

ご不明な点がありましたら都市計画課歴史まちなみ推進係までお問い合わせください。

問合せ先

都市計画課　TEL　30-9183

FAX　31-0999

令和５年１月２６日文化財防火デー

文化財防火デーの制定は、昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建築である法隆寺金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいています。この事件は国民に強い衝撃を与え、その後、この時期に火災が多いこともあり、昭和30年に1月26日を文化財防火デーと定め、文化庁・消防庁・各自治体や文化財所有者・地域住民等が連携・協力して防火運動を展開しています。

宮島は、文化財が特に多い地域です。日頃から気をつけているとは思いますが、あらためて「火の用心」を心がけましょう。

まちなみ通信 No.44（令和５年１月１日）発行
廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係
TEL（0829）30-9183　FAX（0829）31-0999